

## 第1回宇部市協働のまちづくり審議会（議事録）

日 時：令和6年2月6日（火）10：00～  
場 所：宇部市役所 3階 防災情報センター  
出席委員：12名 欠席委員：なし  
事務局：黒瀬部長 石川次長 小林課長  
鈴木副課長 川本係長

### ■内 容

- 1 任命書交付
- 2 市長挨拶
- 3 委員及び事務局自己紹介
- 4 宇部市協働のまちづくり審議会について
  - ・資料に基づき事務局から説明
- 5 会長・副会長選出
  - ・会長：小村委員、副会長：石崎委員が選出され、全委員の賛同を得た。
- 6 審議事項
  - 宇部市新庁舎2期庁舎市民活動支援スペースの活用について
    - ・資料に基づき事務局から概要を説明

### 【審議内容】

- （委 員） コミュニティ活動、ボランティア活動、NPO活動を主体にとあったが、このスペースにどのような人が来るのかと考えた時に、比較的市役所に用事のある子育て世代が多いのではないかと思う。地域活動には子育て世代が参画していないのが大きな問題で、したがって、このコミュニティ活動とボランティア活動とNPO活動にコミュニティスクール活動を加えて、教育委員会の関連するコミュニティスクール活動も必要ではないかと思う。
- （事務局） 学校などと広く連携するための機能を含め、色々な事情が許す限り、教育委員会と連携して取り組んでいきたいと思う。
- （委 員） 市民活動の定義について、条例で記載されていると思うが、市民活動の形態を3つに分類しているのは、内部事務取扱要領等で決まっているのか。
- （事務局） 具体的な定めは無かったと思う。非営利団体であることが第1点であると思う。その他、大きく括れば市民の自発的な様々な活動であると思うが、先程コミュニティスクール活動の提案があり、もう少し幅広に捉えて提案をいただければ柔軟に対応していきたいと考えている。
- （委 員） 平面図で市民活動支援スペース内に控室があるが、設計段階でどのような使われ方のイメージで控室があるのか。
- （事務局） 常駐する職員のロッカーを置くなど、事業者が使用する場所と考えている。

(事務局) 市民活動スペースが2期棟のランドマーク的な位置づけになると考えている。市民活動スペースに行けば市民活動に触れることができ、1期棟の行政と繋がることもできる。市民活動支援スペースに様々な形で活躍している活動団体がひとつに集約され、最後はまちづくりに繋がるイメージと考えている。

(委員) 周辺の青少年会館の閉館、福社会館も具体的に動き出しており、旧井筒屋は解体され建物が建ち一般事業者の提案で提供されていくと思う。2期庁舎へ青少年会館のどのような部分を持ってくるのか、または、旧井筒屋の新しい施設に持っていくのか、考え方を聞きたい。

(事務局) 青少年会館の機能の中で音楽活動をしている団体に関しては、防音機能がある多目的ルームで代替を考えていると聞いている。ただ様々な活動をする上で必要な会議スペースが、福社会館と青少年会館の閉館により不足することは、市でも色々な部署が危惧している。その中で2期庁舎2階の会議室は休日、夜間に一般開放する方向で検討を進めていると聞いている。詳細については、関係部署に確認し、資料を委員の皆様にお知らせしたいと考えている。

(委員) 青少年会館、福社会館が閉館する事で、代替機能をしっかり考えて欲しい。2期庁舎の利用について、活動団体に所属している人は利用しやすいが、一般市民、特に高齢者の方などは3階の食堂などが入りやすい場所かと思う。食堂は何席くらいあるのか。

(事務局) 席数は不明だが、広さは200平方メートル。高齢者が集う場所としては、市民交流スペースがロビー的な位置付けとなっており、コンビニ等も入る予定と聞いている。

(委員) 市民活動支援スペースで、中学生、高校生を含めて様々な世代の方が情報発信や情報交換を行っていくという大きな目標があるかと思うが、まずは2期庁舎に市民活動支援スペースがあり、どんな事ができるのかを知ってもらわないと行く事もない。中学生、高校生に来てもらうための情報発信方法などはどのように考えているか。

(事務局) 中学生含め大学生まで、色々な世代の交流の場となる事が望ましいと考えている。スペース的に難しい事もあるが、学生にアピールできるものがあれば是非提案いただきたい。

(委員) これまでは、学校で配布されるチラシなどで、市や団体から情報を受け取るだけだったが、自分で調べる事によって、たくさんの情報を知ることができた。やはり自分から調べる事が少ないと思うので、双方向の発信ができるといいのではないかと思う。

(委員) 宇部市は地域に学生が入ってくる事への期待値が高いと感じている。地域との距離感が近く、学生に寄せている期待が大きいところはあると思う。どんな街を一緒に目指していくのか、学生に対してプレゼンテーションしていくことが望ましいと考えている。

(事務局) 地域活動、地域コミュニティのことを知って初めて重要性や興味を持つことができる。市としては、ただ伝えるだけではなく、どのように携わってもらうか、どの

ようにきっかけ作りをするかがミッションであり、市民活動支援スペースに来られた市民の方と地域団体、ボランティア団体、NPO 団体の方の輪が広がっていく事を目指している。まずは、参加してもらう事が1番の特効薬と考えている。

(委員) 知るという事が大事ですが、知ってもらうのは凄く難しいと皆さん感じていると思う。チラシやSNSだと興味のある方だけになるので、実際に利用した方の口コミが1番地道で効果的という意味では、ターゲットを絞る必要があると思う。子育て世代や中高生向けセミナーの開催、地域の会議に利用してもらうなどの地道な繰り返しで知ってもらえるのではないかと思う。2期庁舎の利用に関して、各スペースの利用時間や利用料金など決まっている範囲で知りたい。

(事務局) 各スペースの利用時間、使用料について、関係部署に確認し、確定次第お知らせする。

(委員) 様々な団体が活動していると思うが、その活動がどこに載っていたのかという話を聞くことが多い。ここに来たら様々な情報が分かるという場所になればいいのではないかと思う。また、市外の方に宇部市の良さを知ってもらう事も大事だと思うので、市外の方が利用でき、情報があると活用できると思う。市外の方の利用の制限の有無や市民の方から活用方法について意見があるのか聞きたい。

(事務局) 利用については、市内市外の区別を設ける予定はない。  
現在、市民向けに広報等を行っておらず、これから事業者選定を行い、令和7年度の利用開始に向けて情報発信を考えていきたいと思う。

(委員) 地域には様々な課題があり、自治会加入率は市の平均が78%、子ども会は14~15%と言われている。地域活動とは何かを世代別に内容を決めて、目標値を作り、このスペースに行けば各地区の紹介だけではなく、アピールできる情報を流したりすると答えを導きやすいのではないかと思う。

(事務局) テーマを絞って周知していく方法も今後検討していく。

(委員) 20代前半から中盤の人たちという観点でいうと、情報への感度が高く、SNSなどで積極的に情報収集できる世代であり、その情報の信頼性、自分に紐づいているかに非常に敏感であると思う。情報発信は大事だが、その情報が彼らにとって何がいか念頭に置きながらデザインを行う必要があると思う。また、認知症予防にサロン活動が有効である統計が出されており、医学部生とうまく紐づけていくと学生が出ていきやすいし、医療、介護、福祉に若い世代が関われるきっかけになるのではないかと思う。市民活動支援スペースの縦横の長さや他のスペースの縦横と面積を聞きたい。

(事務局) 後日、図面を資料としてお送りする。

(委員) 情報発信のデザインについて話しがあったが、特に大学生は自分のニーズに対してもものすごくキャッチアップしていき、こちらが発信した情報に興味が無ければ見ないという事で、どんなまちづくりの議題にも学生や市民に情報が届かないということが言われている。解決方法として、リサーチのスキルがあるコンサルに依頼し、そこに市なりのアレンジを加えて発信する方法も1つあるかと思う。

- (委員) 広報うべというのは、1番地域に根差しているフリーペーパーなので、そのフリーペーパーの配布の仕組みや発信の仕組みなど、そのネットワークやツールを活用しながら、市民活動をされている方々が独自に発信しているものを、取りまとめて発信できる仕組みを、市民活動支援スペースに置くことが1番の目的ではないかと思う。市民活動支援スペースは、この外観からビジュアル重視でスマートに情報を発信できて、団体の方も集まり、団体に助けを求める方も入って来られるというイメージを持っておく必要があると思う。
- (委員) 市民活動スペースと聞いて、一人一人イメージするところが違っていいと思うが、違う中で他の意見を取り入れて、自分の意見を柔軟に変えていきながら提案していく場と思うので、自由に縛られることなく考えていただきたいと思う。
- (委員) 地域や自治会の高齢化もあるが、市民活動団体の高齢化も進んでいる。市民活動センターは相談、交流、情報発信・収集を柱として、登録団体に限らず思いを形にしてあげる事を1番に活動している。市民活動センターを作る時に開設時間を延ばす要望が多かったが、市の建物に活動スペースができることで制約が増え団体の自由な活動がどこまで一緒にできるのかを考えている。
- (委員) 市民活動スペースは誰でも利用でき、集まった人達で活動ができ部屋を借りるのが理想的な考え方と思う。
- (委員) 庁舎と2期庁舎が繋がっており、行政と市民が一体となって使い勝手のいい場になればいいと思う。
- (委員) 市の様々な交流センターでどういう使われ方をしているのか分かったらイメージができると思う。様々なセンターの情報をベースに進めてはどうか。
- (事務局) ふれあいセンターなど様々な市の公共施設があるので、活用状況について調べたいと思う。
- (委員) 活動拠点としているふれあいセンターからは地域に情報発信をすることができる。市民活動スペースは市全体の発信だけではなく、地域の情報交換の場になればいいと思う。
- (委員) 市民活動スペースに求められる機能として、情報発信、情報収集、誰もが利用しやすい場所、交流もできる場所と意見があった。相談、交流、情報がメインの機能になるかと思うが、そのような機能を有するために、どのような場所にすればいいのか、今後審議していければと思う。

## 7 その他

- ・事務局より「地域活動応援事業者」「地域デビューしてみませんか」についてチラシを配布し紹介